

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

杉本 陽奈子

【所属】(助成決定時)

京都大学大学院文学研究科・博士後期課程

【研究題目】

紀元前 4 世紀アテナイと国際的商業ネットワーク

【研究の目的】(400字程度)

従来の古代ギリシア史研究は、ポリス社会を考察の主軸に据えてきた。そのため、ポリスの枠組みを越えた人々の動きについては、これまで十分に研究がすすめられてこなかった状況にあるといえる。しかし、当時のギリシア世界は大小様々なポリスによって構成されており、各地域の特産品を対象とする交易活動が活発に行われていた。そして、とりわけ紀元前 4 世紀アテナイは国際的な商業都市として、様々な地域から多くの人々が訪れる場所であった。加えて、当時のアテナイでは穀物不足が深刻な問題となっていたことから、海上交易商人を積極的に誘致しようとしていたことが知られている。そこで、本研究では紀元前 4 世紀アテナイをとりまく商業ネットワークについて、当時の国際社会と関連づけながら考察することにより、古代ギリシア世界の構造を明らかにすることを目的とする。

【研究の内容・方法】(800字程度)

上記のような目的のもと、本研究では具体的には、国際的制度と情報伝達に注目することを計画していた。そこで、これらを総合的に分析するための視座として、とりわけ国際的な商業活動を対象とした裁判制度の運営に着目して研究をすすめた。というのも、紀元前 4 世紀アテナイでは商業裁判と呼ばれる制度が整えられたのであるが、その運営に際しては、海上交易商人のネットワークが重要な機能を果たしていたと考えられるのである。その中で特に本研究において注目したのが、法廷における証拠の利用である。証拠を提示するためには、情報を収集したり、その信憑性を担保したりするような仕組みが必要であることから、この点に着目することによって、国際的ネットワークの機能について重要な手掛かりが得られると考えられる。ところが、先行研究ではこうした司法制度についてアテナイ側から考察がすすめられてきたため、裁判の制度的特徴には関心が向けられてきたものの、その実際の運営がどのように成り立っていたのかについては、依然として十分に明らかにされていない状況にあるといえる。

さて、商業裁判の証拠には、証言と文書との二種類が存在した。そこで、商業裁判に関するものとして残存する 5 編の法廷弁論を詳細に分析し、証言と文書がそれぞれどのような形で利用されていたのか、そしてそこには国際的ネットワークがいかなる形でかかわっていたのかについて考察を行った。当時のアテナイの司法制度において、商業裁判は通常の法廷とは異なる特別な位置を占めていたのであるが、その背景には、商業裁判を利用する者の大半が外国人であるという事情があった。つまり、通常の裁判では社会に根差したネットワークが証言の信憑性を担保していたのに対し、商業裁判においては、そうした社会的関係を利用できないのである。本研究では、こうした通常の法廷と商業裁判との差異の背景を比較検討するという手法によって考察をすすめた。

#### 【結論・考察】（４００字程度）

以上の分析の結果、商業裁判における証拠について、次のような点が明らかとなった。まず、商業裁判における証言は、交易活動を行ううえでの人間関係と深く結びついていた。その結果、商業ネットワークが社会的ネットワークの代用として機能し、証言の信憑性を高めていたといえる。また、文書に関しては、当事者間の紛争解決手段であるにとどまらず、アテナイの穀物供給を保護するための法の運用を支える役割を果たしていたことが明らかとなった。つまり、商人の国際的ネットワークは、法や裁判を実際に運営する際に直面することとなる制度上の欠陥を、交易活動の実態に即して補完するような機能を果たしていたといえるのである。このように、本研究の結果、当時のギリシア世界において、ポリス社会とポリスを越えたネットワークとの相互作用によって国際的な秩序が形成・維持されていたということが、司法面について明らかとなったといえるであろう。